茨城県　グループホーム南風

（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870400231		
法人名	医療法人浩悦会		
事業所名	グループホーム南風		
所在地	古河市坂間185－14		
自己評価作成日	平成22年7月26日	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0870400231&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637－2
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者、家族、地域、行政、スタッフ、事業所、全てにおいてコミュニケーションの取り方に気をつけている。その事により細かいサインの早期発見や、安定した介護、相互のストレスの軽減、スムーズな運営とたくさんのメリットがあり、良い環境ができる事によりよりよいサービスの提供ができると考えている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業者が医療法人であり、利用者の健康に配慮しつつ個々のケアに努めていることが確認された。 終末期に向けて対応は併設医療機関・家族・職員と連携をとりながら、利用者にとって最善の方法で対応をしている。 管理者、職員共にケアに対する意識が高く、率直な意見交換や提案を行いながら、利用者が『我が家』に居るような生活を送っている。 開所当時からの職員が多く、管理者・職員・家族の連携は密であると推測された。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度
		○ 3. たまに
		4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	1. 大いに増えている
		○ 2. 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	1. ほぼ全ての職員が
		○ 2. 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員間で共有して折り、実践につなげている	開所時に全職員で作り上げた理念を施設の要所要所に掲示し、また職員会議で確認を行い共有に努めている。 理念を念頭において、日々のケアの実践に努めていると職員から聞けた。	更に地域に根ざしたホーム作りとして地域密着型を意識した理念を作り上げることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事の参加、運営推進会議の地域への呼びかけ等地域とのかかわりは強い	自治会に加入し地域の様々な行事に参加したり、法人主催のイベント（納涼祭）へ自治会住民に回覧で参加を呼びかけたり、招待状を送付して、住民と一緒に楽しんでいる。 散歩時は挨拶を交わしたり、野菜の提供を受ける時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政から依頼された認知症サーポーター養成講座の講師依頼を受けたり、定期的ではないが学校等の講師の依頼があった時も積極的に受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防署の方に講師を依頼し会議で話し合いをおこなったりとリアルタイムの話題に取り組めサービス向上にいかせている	会議は3ヶ月ごとに事業報告、利用状況等を説明し、席上出された意見はサービス向上に活かしている。 議事録にまとめ職員に報告している。 その時々に合った話題により警察官・消防署署員等の参加もある。全家族にお便りで会議の参加を呼びかけ、欠席者には家族会にて報告。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定審査員、キャラバンメイトの登録をしている事から市町村担当者と積極的な関りをもっている	管理者は認定審査員・キャラバンメイトの登録を行っていて、市役所職員を対象としたサポーター養成講座の講師として出かけている。 小・中・高生の体験学習、専門学校生の実習受け入れの場として提供を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を設置し拘束をしないリスクを家族に説明し同意を得たうえで拘束のない日常を送っている	身体拘束に関する委員会を設置し、拘束をしないリスクを家族に説明し書面にて同意を得ている。 研修会を行い、拘束の無い安全に配慮したケアに努めている。車椅子の点検（ブレーキ・空気圧）は日々、行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修の報告会で虐待に関してスタッフも深く周知している　施設を外部にオープンする事により施設の状況が一目瞭然にわかるような環境作りに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に遺言を作成する機会があり、制度についてスタッフ間で、話し合い考える機会がもてた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章化したものを提示し読み上げ、さらに納得の有無も確認し充分に行なえていると思う		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを多めに図り意見を出しやすい環境作りに努めている。また、ご意見箱の利用もうながしている	意見箱の設置・書面にて苦情窓口を明示しているが、意見等はほとんど無い。 職員と家族との関係は良好であるので面会時に聞くようにしている。 家族会を利用し意見を出してもらっている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例としては行なっていないが、随時、職員の意見は聴取しており、運営上の参考としている	法人代表が職員の意見や提案に耳を傾けてくれるのは勿論、管理者が現場に入っているので、『職員の思いは感じてくれている』と職員の聞き取りから伺えた。研修受講や勤務ローテーションも希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、実績等の定量評価を行なっておらず、また、労働環境の定量評価も定まっていないため、客観的基準の設定を検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、積極的に受講し不定期ながら内部勉強会を催すなどし、職員のスキルアップを図っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設への見学会や推進会議への参加依頼をし、ネットワークづくりに力をいれている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望、不安、楽しみその他を本人や家族に聞き誠心誠意、信頼されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを多くとる事により、なるべく心情をくみ取れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちが知りうる情報を全て提供し、話しあったもとでサービス利用を決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き、家族の一員として生活できるように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを聞き、面会時等はご本人と居室ですごしていただき、一家団欒、絆を深めていただいている。特にご本人と家族のパイプ役となり、共に支えあえる関係作りには気をつけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により全ての方とはいえないが、おこなている。家族と相談し、友人の面会や可能な外出支援をできるようにしている	これまでの生活暦やアセスメントから家族と相談し、友人の面会や自宅を見に行ったりし、馴染みの人や場所の関係継続に家族と連絡をとりながら支援に努めている。 家族の協力により美容院やお墓参りに行く利用者がいる。 入居前からのサークルに継続し参加している利用者がいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格の違い、その日の気分によりトラブルもあるが、利用者同士一緒に活動したり関わり合えるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に案内や相談を受けさせて頂いている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は充分にアセスメントを行なっている。ご家族から、分かる限りのご本人の情報を聞かせていただいている	生活暦・アセスメントから利用者の思いや希望の把握に努めている。 日々の会話や入浴時のゆったりした時間の中で出る意見を大切にしている。 困難な場合は利用者の立場になり本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係各所、あらゆる情報機関より情報提供をいただけるようにしている。生活歴シートも作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中から、表情や身体の状態観察を行い、その日その時の状況で対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、担当者会議で意見を出し合い、計画をたてている	利用者の日常生活記録・会話･気づき等を記入する用紙をもとに、現状に即した介護計画書を作成し、利用者もしくは家族に説明をし同意を得ている。 1ヶ月ごとに評価を行っていることが確認された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別表に記入し、常にスタッフ間で情報提供し本人にあう計画をその都度見直している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りの柔軟性は心掛けているが、多機能とはいえるまでではない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用しての生活は責任の所在に難しさがあると思われる。理想では豊かな暮らしをと思う気持ちはあるが、難しいと思われる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一に考え納得のいく方法で支援している	併設医療機関の医師が定期的に往診に来ている。 専門医受診は家族・職員がつきそっている。 いずれも記録に残し家族にも報告していることが確認された。 認知症専門医の受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があった場合等含め日常的に状況報告を行い、受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必ずサマリーを作成し、情報提供を行なっている。入院中もまめに家族と連絡を取り合い、退院後の不安等の軽減を努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針に関しては早い段階から大まかな取り決めを行い、状況に応じて医療関係、介護者、家族」、本人との話し合いは充分に行なわれている。家族へのアンケートも行なっている	入居時に家族に説明を行い、 利用者の状態に応じ家族の想いは変わるのでその度に相談を重ね同意をとっている。利用者にとって最善の支援方法を家族・医師・職員にて話し合い、それに添った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが対応につては実践で身についている。救命講習を全スタッフが受講している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の下、全職員が訓練を経験できるようにし、年2回の避難訓練行なっている。運営推進会議では、火災をテーマに開催した	消防署・防火管理者の下、年2回の避難訓練（夜間想定・消火器点検・避難経路確認・緊急連絡網）を開催し、全職員が利用者の避難方法を身につけている。 備蓄品の整備はこれからとのことであった。緊急通報装置は消防署と同時に職員にも通報するようになっている」	いつ起こるかわからない災害に備え、必要備蓄品の整備が望ましい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーは守り、人格を損ねるような言葉掛けはしない。感謝の気持ちを伝えたり、敬う気持ちで接している	書類等は事務室に保管し個人情報保護に努めている。 利用者の状況を家族に行うときは他の利用者に配慮し、居室にて行っている。 声掛けは丁寧で利用者の人格を尊重されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出しやす環境つくりに努めたり、表現を見逃さないようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしたい気持ちはあり、できる限り大切にはしているがスタッフの人手不足もあり本人の思い通りに支援できないこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に服装をができずさりげなく支援してはいるが　ご本人の強い意志もあり難しさを感じている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に雑談をしながら食材を切り、盛り付けや食器拭きなどできる事を一緒におこなっている	併設の病棟管理栄養士が考えた献立が提供されている。 調理、盛り付け、配膳、食器拭き等一連の流れの中で利用者が自分を発揮できる場となっている。 食事風景は会話が弾む楽しい一時であった。おやつ（芋羊羹・お好み焼き・ホットケーキ等）は利用者が作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は個々に表を作って観察記録している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせ声掛けや誘導、環境作りを行なえるようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表に記入しスタッフが把握しなるべくトイレで排泄できるように支援している	一人ひとりの排泄パターンや表情から把握し、さりげない声掛けで、トイレに誘導し自立に向けた支援を行っている。 失禁時の対応は利用者の自尊心を傷つけないように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物にバリエーションをつけ工夫したり、散歩に出たり体を使うレクリェーションを行なったりして予防に取り組んでいる　またそれらの対応にも効果が無い方はDrに相談し個々にあわせ下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	２４時間対応する事はリスクが高いので難しいがなるべく個々にあわせた支援を行なっている	利用者の希望に応じた入浴支援を行い、楽しく･ゆったり･気分転換できるような支援に努めている。 季節に応じた菖蒲湯･ゆず湯や入浴剤の使用時は話が弾むとの事。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ふだん、共有スペースで過ごしているが個々の時間で居室に戻ったり、ソファーでゆったりとした時間も大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携を図り副作用や用法について情報を頂いている　また各自の服用が一目でわかる工夫を行なっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が役割を持った生活を送れるよう心掛け実践できていると思うが楽しみごととなると難しさを感じる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の方が実践できているわけではないが、ご家族の協力を得られるような態勢や、希望する外出が実現するためのケアプランづくり等取り組んでいる	天気のよい日は出来るだけ外気浴ができるように支援している。 家族の協力を得て利用者の希望する外出が実現できるように努めている。 外食や花見などに出かけている。特に毎月の外食は楽しみにされている様子があった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関する事は大きなトラブルを発生するため預かったお金を支払うよう支援等は行なっているが現金の自己管理は基本控えて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態に応じて支援させて頂いているが、家族間の問題もあり相談しながら行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け、心地よく生活できるように努めている	食卓･ソファ･たたみコーナーで利用者は思い思いの場所でのんびり過ごしている。 共有空間は不快な音や混乱を招くような刺激は無く、季節の草花をさりげなく飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の大半を共有スペースで過ごしている方がほとんどだが強制をしているでもなく各々が自由なことを行なえている事から特別な工夫はしていないが確保できてると判断している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながらおこなっている	利用者が慣れ親しんだ、テレビ･椅子･冷蔵庫･仏壇･鏡台･テーブル等が安全に配慮しつつ設置されている。 家族の写真や趣味の小物や習字を利用者はホッとした表情で見ていた姿があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち入り不可の空間を減らし、骨同の制限をしないようにしている。安全についてはどんな場所でも事故が起きうることを念頭におき、最低限危険がないよう常日頃から心掛けている		

（別紙4（2））

事業所名　グループホーム南風

作成日：平成 23　年　1 月 12　日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害に備え、必要備蓄品の整備を行なう	飲料水の確保を行う	ポリタンクを用意し水の備蓄を可能にする。月一度の交換や衛生管理等職員周知を徹底させる。	済
2	1	地域密着型を意識した理念つくり	さらに地域に根ざしたホームつくり	実践されない理念では意味が無いのでスタッフと共に作成し共有できるよう努める	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。